

詩篇119篇1-88節 「主を尋ね求める人」

- 1A א アレフ 全き心 1-8
- 2A ב ベス 聖さを保つ道 9-16
- 3A ג ギメル 旅のような孤独 17-24
- 4A ד ダレス 悲しみの中で 25-32
- 5A ה ヘ 終わりまで守る道 33-40
- 6A ו ワウ 御言葉を語る道 41-48
- 7A ז ザイン 御言葉を思い出す慰め 49-56
- 8A ח ヘス 自分の道の願み 57-64
- 9A ט テス 苦しみの中の幸い 65-72
- 10A י ヨード 主を恐れる人々 73-80
- 11A כ カフ 絶え入る心 81-88

本文

今日は聖書の中でもっとも長い章である詩篇 119 篇を学びます。この詩篇は「神の御言葉」がほぼすべての節に出てきます。神の「ことば」「教え」「さばき」「仰せ」「戒め」などです。出てこないのは三つの節しかないと言われています。

そして詩篇の中には、アクロスティック(acrostic)と呼ばれるものがありますが、119 篇はその代表です。それぞれの段落の語頭の文字が、アレフ、ベス、ギメル・・・とヘブル語のアルファベットの順番になっています。ユダヤ人の子どもは、この詩篇を丸ごと覚えるそうですが、段落の語頭がアルファベットの順になっているので、その分覚えやすいのです。それぞれの段落が、神のみことばについて何を主題にしているか考えながら読んでみましょう。

例:119 篇 1-8 節

- 1 אֲשֶׁר־י תְּמַיִם־דָּרְךָ הַהֲלֹכִים בְּתוֹרַת יְהוָה:
- 2 אֲשֶׁר־י נִצְרִי עֲדָתוֹ בְּכָל־לֵב יִדְרֹשׁוּהוּ:
- 3 אֶף לֹא־פָעֵלוּ עוֹלָה בְּדַרְכֵי הַלְכוּ:
- 4 אֲתָה צוֹיְתָה פְקֻדֹתַי לְשֹׁמֵר מִאֵד:
- 5 אֲחֲלִי יִכְנֹו דַרְכֵי לְשֹׁמֵר חֻקֶיךָ:
- 6 אֲזִלֹא־אֲבוֹשׁ בְּהֵבִיטִי אֶל־כָּל־מַצּוֹתֶיךָ:
- 7 אֲוִדָּךָ בִּישָׁר לִבִּי בְלִמְדֵי מִשְׁפָּטֶי צְדָקָךָ:

1A x アレフ 全き心 1-8

1 節から 8 節までを読みます。ここでは、「アレフ」の文字から始まります。ヘブル語の A を表す言葉です。

119:1 幸いなことよ。全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々。119:2 幸いなことよ。主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。119:3 まことに、彼らは不正を行わず、主の道歩む。

「幸いなことよ」という言葉から始まります。幸いなことよ、という呼びかけから始まる詩篇は多くあります。この 119 篇 1-8 節が、ちょうど第一篇にある「幸いなことよ」と似た内容になっています。これから展開される言葉の基本になっているのが、アレフの部分、1-8 節です。

幸いな人の初めの言葉が「全き道を行く人々」であります。ノアが、そのような人であったことを創世記の著者は教えています。「創世 6:9 ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。」そして主は、アブラハムが 99 歳であった時に、「17:1 あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。」と語られました。これは、完璧な人になりなさいということでしょうか？いいえ、ノアもアブラハムも完璧ではありませんでした。むしろ、ノアは全き信頼を神に寄せていた人でした。全幅の信頼を寄せ、全き信仰によって神に抛り頼み、最後までしっかりとその信仰を保っている姿であります。

そして、全き道を行く人の特徴は、「心を尽くして主を尋ね求める」ことです。主の語られることを一心に求めて、この方と愛の関係の中で一体なっていることを求めています。これは、道を求める、神を求道している姿勢です。私たち日本の教会は、しばしば信仰に至っていないけれども求めている人たちのことを、「求道者」と言います。そして信じたら、「信じた人々」と言って分けています。けれども、それは必ずしも良い区別ではありません。なぜなら、信じた時から私たちは、主を尋ね求める求道者だからです。いつまでも、自分が熱心に、飢え渴いて、主を慕い求め、そしてそのために、神の御言葉に思いを寄せる、という求道が私たちの特徴であるべきです。

これを言い換えるなら、「永遠の命を持つ」ということであります。霊的な命を、聖書ではしばしば生ける水に例えています。貯水池にあるような水ではなく、泉から流れる水です。これは留まっているのではなく、流れているものです。これは血液と同じです。血が存在していることが命を持たせているわけではありません。血が体の中を流れているから、酸素など必要な物質を届けることによって生きることができるのです。永遠の命も同じです。ですから、いつまでも自分が完成されて

¹ The Hebrew Bible: Andersen-Forbes Analyzed Text. 2008 (Ps 119). Logos Bible Software.

いると思わない、だから主を求め、主に従っていく。いつまでも完成されていないので、絶えず主に拠り頼む。その中に逆説的ですが、そこに完全性があります。

119:4 あなたは堅く守るべき戒めを仰せつけられた。119:5 どうか、私の道を堅くしてください。あなたのおきてを守るように。119:6 そうすれば、私はあなたのすべての仰せを見ても恥じることはないでしょう。119:7 あなたの義のさばきを学ぶとき、私は直ぐな心であなたに感謝します。119:8 私は、あなたのおきてを守ります。どうか私を、見捨てないでください。

全き道があるのに対して、「私の道」もあります。神の仰せにある道と、自分の道が一本になっていない時に、私たちは過ちを犯します。けれども、私たちの心に主の御心が置かれているなら、私の道も主の道と一つになっているのです。この尋ね求めが、まさにここでの祈りです。

そして、「戒めを守る」という言葉が頻繁に出ています。これは、律法の規則を守るというような規律ではなく、むしろ真実な愛の結びつきのことです。新約において、イエス様がそれを明らかにされました。「ヨハネ 15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。」キリストの愛の内に留まり、この方の語られることを聞いて、それを留めていることが、すなわち主の戒めを守ることです。

2A ユ ベス 聖さを保つ道 9-16

9 節から 16 節に行きます。ここはヘブル語の「ベス」から始まる段落です。

119:9 どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。119:10 私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。119:11 あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。

主を尋ね求める中で、聖い道をいかに保つことができるのか？を問うている箇所です。「若い人」とありますが、若者には大きな可能性があると同時に、その時に愚かな判断をしてしまうという未熟さも表しています。その愚かさからどのようにして守られるのか、というと、「あなたのことばに従ってそれを守ること」そして、「あなたのことばを心にたくわえ」ることです。イエス様は弟子たちに言われました。「ヨハネ 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。」イエス様の言葉を聞いていれば、それで魂と心に清めが起こります。ある説教者はこう言いました。「この書物(聖書)は、あなたを罪から引き離し、罪はあなたを聖書から引き離す。」

119:12 主よ。あなたは、ほむべき方。あなたのおきてを私に教えてください。119:13 私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。119:14 私は、あなたのさとしの

道を、どんな宝よりも、楽しんでいます。119:15 私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。119:16 私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことばを忘れません。

御言葉に親しむ姿をここで見ることができますね。唇で主の語られたことを自分も語ります。そして、どんな宝よりも神の諭を楽しんでいます。思いを潜めています。そして喜びとして、忘れていません。まるで、どこかエンターテイメントかリクリエーションに言って楽しんでいるかのように、御言葉に親しんでいます。私たちが誘惑から守られるのは、その誘惑から遠ざかることはもちろんのことですが、それ以上に、神の義を慕い求めることにあります。「2テモテ 2:22 それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」

3A ヌ ギメル 旅のような孤独 17-24

17 節から 24 節は、ギメルで始まる言葉です。

119:17 あなたのしもべを豊かにあしらい、私を生かし、私があなたのことばを守るようにしてください。119:18 私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。119:19 私は地では旅人です。あなたの仰せを私に隠さないでください。

ここの箇所は、御言葉によって孤独な地上での歩みを守ってくださいという祈りになっています。使徒ペテロなど、私たち信仰者は地上において寄留者であると教えています。国籍が天になったので、私たちがこの地上で生きている時は、ここに属しているという感じがしない、その孤独感を味わいます。

そこで一つ目の祈りは、「生かしてください」です。この願いは、第 119 篇に数多く出てきます。これは感じて、活動の活を使って「活かしてください」と書いたほうが良いのではないかと思います。活力を与えてください、という祈りです。英語は、リバイブしてくださいと言っています。

それから二つ目に、「私の目を開いてください」とあります。この地上で生きていると、主が行われている事に対して目が閉ざされるという危険があります。主がなされていることは天からのものであり、それは地上に生きている者としては不思議であり、奇しいのです。聖霊によらなければ、それを悟ることができません。ですから、絶えず霊的に目が開かれているように祈り、また主の仰せが自分から隠れることのないようにしてください、と祈っているのです。「あなたがたの心の目ははっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか」分かるように、とパウロは祈っています(エペソ 1:18)。

119:20 私のたましいは、いつもあなたのさばきを慕い、碎かれています。119:21 あなたは、あなたの仰せから迷い出る高ぶる者、のろわるべき者をお叱りになります。119:22 どうか、私から、そ

しりとさげすみとを取り去ってください。私はあなたのさとしを守っているからです。119:23 たとい君主たちが座して、私に敵対して語り合ってもあなたのしもべはあなたのおきてに思いを潜めます。

ここで言っている「しりとさげすみ」とは、「こんなことをやったら、他の人たちにどう思われるだろうか」と恐れる、強い自意識であり、自尊心です。これは高ぶりから来ています。そういったものにとられることのないように祈っているのです。私たちは絶えず、人を恐れるという敵との内なる闘いがありますね。そしてこの恐れに打ち勝つことができれば、その相手がたとえ君主であっても恐れることなく、主の掟に思いを潜めることはできるのです。

119:24 まことに、あなたのさとしは私の喜び、私の相談相手です。

すばらしいですね、「相談相手」という訳がいいです。私たちがこの地上で旅人として歩む時に、この世からの相談を聞くことはできません。しかし、神の諭しこそが自分の相談相手なのです。私たちは友達以上に、主の言葉を相談相手としているでしょうか？また、世間のカウンセラーよりも、主の言葉を慕い求めていますか？イエス様こそが、私たちの不思議なカウンセラー、助言者であります。

4A τ ダレス 悲しみの中で 25-32

119:25 私のたましいは、ちりに打ち伏しています。あなたのみことばのとおり私を生かしてください。119:26 私は私の道を申し上げました。すると、あなたは、私に答えてくださいました。どうか、あなたのおきてを私に教えてください。119:27 あなたの戒めの道を私に悟らせてください。私が、あなたの奇しいわざに思いを潜めることができるようにしてください。119:28 私のたましいは悲しみのために涙を流しています。みことばのとおり私を強くささえてください。

25 節から 32 節までは、ダレスという文字、英語の D に当たる文字で始まっています。ここでは、「悲しみの中での祈り」になっています。塵にひれ伏し、生かしてほしいと願っています。そして悲しみの中にいるので、強く支えてくださいと言っています。ところで、詩篇 119 篇には「堅くする」という言葉が多く出てきます。5 節に「私の道を堅くしてください」とありました。これは、状況がどう動いても、揺るぐことのない信仰を与えてくださいということです。パウロは、新しく信じたテサロニケ人に対して、こう言いました。「1テサロニケ 3:8 あなたがたが主にあって堅く立っていてくれるなら、私たちは今、生きがいがあります。」

119:29 私から偽りの道を取り除いてください。あなたのみおしえのとおり、私をあわれんでください。119:30 私は真実の道を選び取り、あなたのさばきを私の前に置きました。119:31 私は、あなたのさとしを堅く守ります。主よ。どうか私をはずかしめないでください。119:32 私はあなたの仰せの道を走ります。あなたが、私の心を広くくださるからです。

人が悲しんでいる時に、真実ではない偽りの道もその人には示されます。その中でも、真実を積極的に選び取っていく姿をここで見るすることができます。そして、ここではその積極性がさらに勢いを増しています。「さばきを私の前に置きました」「さとしを堅く守ります」そして、「仰せの道を走ります」と言っています。走るとは、熱心に求めていることです。何となく、流れのままにするのではなく、流れに逆らっても何としてでも捕えようとする態度です。成熟した信仰者は、実は熱心な求道者でもあります。パウロがこう言いました。「ピリピ 3:12-14 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。」

そして、「私の心を広くしてくださる」と言っています。これは余裕のある心です。主がすべてのことをしてくださっているという安心感と信頼のある心です。そんなこんなでは動じない、神に頼り切っている人の心です。そういう人は、自分を守る必要はなく、主が守ってくださるので心の人々に広げることができます。「ピリピ 4:5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。」

5A η へ 終わりまで守る道 33-40

33 節から 40 節までは「へ」というアルファベットで始まる部分です。

119:33 主よ。あなたのおきての道を私に教えてください。そうすれば、私はそれを終わりまで守りましょう。119:34 私に悟りを与えてください。私はあなたのみおしえを守り、心を尽くしてそれを守ります。119:35 私に、あなたの仰せの道を踏み行かせてください。私はその道を喜んでいきますから。

ここの箇所は、「終わりまで守りましょう」という言葉が主題です。私たちは信仰によって歩み出すのは、ある意味で楽です。けれども、その競走を最後まで貫くのは大きな課題です。数多くの人が、自分はしっかり始めたのだから大丈夫だと思ってしまいます。けれども、聖書の中には数多く、きちんと始めたけれども終わりまで走らない人の教訓が、数多くあります。約束の地に入った、イスラエルの民は最後までカナンの住民を追い出すことをしませんでした。アマレク人を聖絶せよと命じられたサウルは、家畜のうち良いものを残し、またその王を殺しませんでした。サウルはついに、主から退けられ、魔術に頼るようになります。ヘブル書の著者はこう言いました。「もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。(3:14)」終わりまで守ります。

119:36 私の心をあなたのさとしに傾かせ、不正な利得に傾かないようにしてください。119:37 む

なしいものを見ないように私の目をそらせ、あなたの道に私を生かしてください。119:38 あなたのことばを、あなたのしもべに果たし、あなたを恐れるようにしてください。119:39 私が恐れているそしりを取り去ってください。あなたのさばきはすぐれて良いからです。119:40 このとおり、私は、あなたの戒めを慕っています。どうかあなたの義によって、私を生かしてください。

信仰の競走において、その中で不正の利得に傾くという強い力、誘惑を受けます。不正の利得とは、神なしに利益を求める生活です。自分の得になることを、主の事柄よりも大事になることです。そして、「むなしいもの」とは、決して心を満たすことはないのに向かってしまう気晴らしができる事がらです。こうしたものに、いつの間にか心が引き寄せられて神から離れていくことは十分にあり得ます。そして、「そしりを恐れる」というのは、先ほど話したように屈辱のことで、自分が惨めになりたくないと思って、すべきことをしていかないという動機です。

そして最後まで走るのにあたって、大事なことは、それが神の義によって生かされているということです。自分の正しさや頑張りではなく、神の正しさによって生きることです。それは、キリストが十字架の上でくださった義の業であります。私たちはキリストを信じて、それで義と認められています。

6A | ワウ 御言葉を語る道 41-48

41-48 節は、「ワウ」というヘブル語のアルファベットで始まります。

119:41 主よ。あなたの恵みと、あなたの救いとが、みことばのとおり、私にもたらされますように。119:42 こうして、私をそしる者に対して、私に答えさせてください。私はあなたのことばに信頼していますから。119:43 私の口から、真理のみことばを取り去ってしまわないでください。私は、あなたのさばきを待ち望んでいますから。

これは、「福音を語る道」と呼んでよいでしょう。あなたの恵みと、あなたの救いとが私にもたらされますように、という祈りですが、エペソ書 2 章にある言葉です。「8 節 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」神の恵みのゆえに、信仰によって救われたことがいつも、自分にありますようにという祈りです。そして、自分に対してそれは違うだろうという人々に対して、しっかりとその希望について弁明ができますように、と祈っています。「1ペテロ 3:15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求め人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」私たちが、反対があるからと言って黙ってしまって、真理のことばを語らないようにという祈りを捧げています。

119:44 こうして私は、あなたのみおしえをいつも、とこしえまでも、守りましょう。119:45 そうして私は広やかに歩いて行くでしょう。それは私が、あなたの戒めを求めているからです。119:46 私

はまた、あなたのさとしを王たちの前で述べ、しかも私は恥を見ることはないでしょう。

そうですね、王という権威者の前でも恐れずに福音を語ります。使徒パウロは、ヘロデ・アグリッパ二世の前でそのことを行ないました。「私は福音を恥と思いません。(ローマ 1:16)」という言葉どおりです。

119:47 私は、あなたの仰せを喜びとします。それは私の愛するものです。119:48 私は私の愛するあなたの仰せに手を差し伸べ、あなたのおきてに思いを潜めましょう。

主を愛するだけでなく、主の仰せを愛しています。「愛する」という言葉は、強烈であり、何にも増して大事にするということです。「これらのものよりも、わたしを愛しますか。」と復活の主は、漁をしたペテロに尋ねました。自分のしていることよりも、主が語られていることがあるならば、それを優先し、愛しているか？ということです。

7A r ザイン 御言葉を思い出す慰め 49-56

次、49-56 節は「ザイン」というアルファベットから始まります。

119:49 どうか、あなたのしもべへのみことばを思い出してください。あなたは私がそれを待ち望むようになさいました。119:50 これこそ悩みのときの私の慰め。まことに、みことばは私を生かします。119:51 高ぶる者どもは、ひどく私をあざけりました。しかし私は、あなたのみおしえからそれませんでした。119:52 主よ。私は、あなたのとこしえからの定めを思い出し、慰めを得ました。

先ほどは、御言葉を人々に伝える道であります、ここでは御言葉を思い出す道であります。初めに、主ご自身が思い出してほしいと願っています。もちろん、主はご自身のみことばを忘れていませんが、それを実行に移してほしいと願っています。アブラハム、イサク、ヤコブに神が約束を与えられた後、約四百年後に、その契約を主は思い起こされました。「神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。(出エジプト 2:24)」

そして、今度は自分自身が御言葉を思い起こして、それで慰めを受け、元気になりたいと願っています。主の御言葉を思い出ささえすれば、私たちは神を神としない高ぶる者たちの中にも、生きることができます。主が復活されてからの女たちのことを思い出してください。「ルカ 24:6-8「ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出ささい。人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」女たちはイエスのみことばを思い出した。」そして、女たちの行動が全く変わりました。ですから、御言葉を思い出すという作業は信仰に命を与えるのに欠かせないのですが、それを行ってくださるのは聖霊です。「ヨハネ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わ

たしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

119:53 あなたのみおしえを捨てる悪者どものために、激しい怒りが私を捕えます。119:54 あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。119:55 主よ。私は、夜には、あなたの御名を思い出し、また、あなたのみおしえを守っています。119:56 これこそ、私のものです。私があるあなたの戒めを守っているからです。

主の教えを捨てるような時代にいる時に、どうすればよいのかを書いています。「旅の家で、おきてが歌となった」とありますが、先ほど見たように、天に国籍を持っている者たちにとってこの地は寄留者です。その中で、御言葉を歌としていきます。私たちは礼拝賛美において、ただ自分の気持ちや歌うのではなく、神の御言葉そのものを歌うものがあります。それから、夜に御名を思い出すとあります。この夜は、必ずしも物理的な夜に限りません。暗闇の勢力が押し迫るような時であっても、ということです。その中でも主の御名を思い出します。思い出すことを、悪い時代になってもやり続けるのです。

8A n ヘス 自分の道の顧み 57-64

57-64 節です、「ヘス」というアルファベットから始まります。

119:57 主は私の受ける分です。私は、あなたのことばを守ると申しました。119:58 私は心を尽くして、あなたに請い求めます。どうか、みことばのとおりに、私をあわれんでください。

主ご自身が自分の受ける分、という大胆な信仰告白です。主が何かをしてくれるから、主を信じるのではなくて、主ご自身で私は十分である、この方が私の全てであるという告白です。これができないために、イスラエルの民はかつて偶像に走っていきました。イスラエルの神、主ご自身だけで満足できなかったのです。しかし、「あなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。(コロサイ 2:9)」と言っています。

119:59 私は、自分の道を顧みて、あなたのさとしのほうへ私の足を向けました。119:60 私は急いで、ためらわずに、あなたの仰せを守りました。119:61 悪者の綱が私に巻き付きましたが、私は、あなたのみおしえを忘れませんでした。

主だけで十分というところから、いつの間にか迷ってしまうというのが、私たちの姿です。しかし、そのように迷わないように、自分の道を顧みますというのがここでの告白です。自分が主ご自身ではないところに迷っているのであれば、そこで気づき、急いで引き戻ればよいのです。迫害があつて、主の御名による集まりをやめていった者たちが出てきた中で、ヘブル書の著者はこう言いました。「私たちは聞いたことをますますしっかり心に留めて、押し流されないようにしなければなりません。(2:1)」押し流される、というのは、いつの間にか漂流するという意味合いがあります。自分

が大丈夫だと思っていた所が、かなり沖に出ていて、もう岸边に戻ることができない状態です。ですから願ひる、という時を持つことは大事です。「もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。(1コリント 11:31)」

119:62 真夜中に、私は起きて、あなたの正しいさばきについて感謝します。119:63 私は、あなたを恐れるすべての者と、あなたの戒めを守る者とのともがらです。119:64 主よ。地はあなたの恵みに満ちています。あなたのおきてを私に教えてください。

真夜中になっても、正しい裁きがあると言っています。つまり、この世が暗くなろうとも、罪がはびころうとも、主の正しい言葉があればそこで感謝することができるのです。そして、そうして御言葉にしがみついている自分が、他に主を恐れる人々と仲間になることができます。そして、そのように暗き世になった地上で、恵みが満ちているということのできる広がりを持つことができるのです。世が悪くなっても、なおのこと光はいよいよ輝くのです。

9A ヲ テス 苦しみの中の幸い 65-72

そして 65-72 節は、「テス」というアルファベットから始まります。ここで最も出てくる言葉が、「トブ」であることは午前中に話しました。トブは、テスの文字から始まります。

119:65 主よ。あなたは、みことばのとおり、あなたのしもべに良くしてくださいました。119:66 よい分別と知識を私に教えてください。私はあなたの仰せを信じていますから。119:67 苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります。119:68 あなたはいつくしみ深くあられ、いつくしみを施されます。どうか、あなたのおきてを私に教えてください。119:69 高ぶる者どもは、私を偽りで塗り固めましたが、私は心を尽くして、あなたの戒めを守ります。119:70 彼らの心は脂肪のように鈍感です。しかし、私は、あなたのみおしえを喜んでいます。119:71 苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。119:72 あなたの御口のおしえは、私にとって幾千の金銀にまさるものです。

ここは、私の大好きな御言葉です。もし苦しみにあっていなかったら、決してキリストのところに来なかったと思います。今でも思い出すのが恥ずかしい、情けない出来事がきっかけでした。けれども、それで教会に行き、キリストの教えを聞き、それでイエス様を自分を罪から救う方として信頼したのです。自分の愚かさに対してそうした悪いことが起こらなければ、決して聖書を読みたいなどと思わなかったことでしょう。そして苦しみを経たからこそ、私たちはへりくだることができます。

私が幸せだったのは、カルバリーチャペル・コスタメサで受け入れられたことです。彼らは聖書を本当によく学びます。しかし、その知識は彼らを高ぶらせることはありません。なぜなら、人生のどん底を通過してきた人々が多くて、聖書知識は彼らを文字通り救う言葉でありこそすれ、自分の知識欲を満たすものではなかったからです。苦しみによって、主の慈しみ、良さを知ります。

10A・ヨード 主を恐れる人々 73-80

73-80 節は、「ヨード」というアルファベットです。

119:73 あなたの御手が私を造り、私を形造りました。どうか私に、悟りを与えてください。私があるあなたの仰せを学ぶようにしてください。119:74 あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。119:75 主よ。私は、あなたのさばきの正しいことと、あなたが真実をもって私を悩まされたことを知っています。

ここは、先の苦しみににおける神の慈しみについての続きです。主が、私たちをご自身の真実をもって悩まされます。その中で彼が知ったことは、自分自身に悟りがあるのではなく、自分を造らせた神に知識と知恵があるのだということでした。自分はおぼろげに、神に拠り頼んでいるのだということを知ったのです。

そして大事なことは、ここでは主を恐れる人が、自分を見て喜ぶということです。自分だけが主のことばを喜んでいるのではなく、主を恐れる仲間がいたということです。私たちには、そうした信仰を持つ仲間が必要です。そして主を恐れる者たちが語るその会話を、神はとて喜ばれます。「マラキ 3:16 そのとき、主を恐れる者たちが、互いに語り合った。主は耳を傾けて、これを聞かれた。主を恐れ、主の御名を尊ぶ者たちのために、主の前で、記憶の書がしるされた。」

119:76 どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、あなたの恵みが私の慰めとなりますように。119:77 私にあなたのあわれみを臨ませ、私を生かしてください。あなたのみおしえが私の喜びだからです。119:78 どうか高ぶる者どもが、恥を見ますように。彼らは偽りごとをもって私を曲げたからです。しかし私は、あなたの戒めに思いを潜めます。

主の恵みと憐れみが臨むようにという祈りです。その逆は高ぶる者たちです。神の恵みは、へりくだる者に注がれます。(ヤコブ 4:6)

119:79 あなたを恐れる人々と、あなたのさとしを知る者たちが、私のところに帰りますように。119:80 どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。それは、私が恥を見ることのないためです。

再び、神を恐れる者たちが自分の仲間になるように、という祈りを捧げています。私たちは、どのような仲間を持っているのでしょうか？自分がイエスを敬い、その関係の中に正してくれる仲間の中にいるのでしょうか？それとも、自分のやりたいこと、願っていることをただ聞いてくれる人を求めているのでしょうか？今、自分の交わっている人々が、自分が主を恐れているからそうなっているのか、それとも自分に引き寄せたいからそうしているのか、顧みてみる必要があります。

11A ッ カフ 絶え入る心 81-88

81-88 節は「カフ」というヘブル語のアルファベットです。

119:81 私のたましいは、あなたの救いを慕って絶え入るばかりです。私はあなたのみことばを待ち望んでいます。119:82 私の目は、みことばを慕って絶え入るばかりです。「いつあなたは私を慰めてくださるのですか。」と言っています。119:83 たとい私は煙の中の皮袋のようになっても、あなたのおきてを忘れません。

今日は、ここの区分を最後にしたいと思いますが、ここでは「慕って絶え入るばかり」という言葉が重要になります。いわゆる、「もうだめだ、限界、死にそうだ、終わっちゃう」というような、燃え尽きてしまうという手前の状態です。ここは、迫害の中で神の救いを待ち焦がれている姿であります。私たちがこの世の中で押しつぶされそうになる時に、「主よ、来てください。」マラナタと言いたくなる、深い呻きの言葉であります。

ローマ 8 章でパウロがそのことを話しました。「私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。(22-23 節)」私たちは、しばしば「産みの痛み」という言葉を使いますね。何かが産み出る時に、なかなか出てこなくて苦しみあえぐ姿です。しかし、主がその呻きにおいて御霊によって助けてくださり、必ず御心に沿った執り成しを捧げてくださっています。

119:84 あなたのしもべの日数は、どれだけでしょうか。あなたはいつ、私を迫害する者どもをさばかれるのでしょうか。119:85 高ぶる者は私のために穴を掘りました。彼らはあなたのみおしえに従わないのです。119:86 あなたの仰せはことごとく真実です。彼らは偽りごとをもって私を迫害しています。どうか私を助けてください。119:87 彼らはこの地上で私を滅ぼしてしまいそうです。しかしこの私は、あなたの戒めを捨てませんでした。119:88 あなたの恵みによって、私を生かしてください。私はあなたの御口のさとしを守ります。

迫害の中で耐え忍んでいる姿です。「日数がどれだけでしょうか」というところに、切実さが伝わってきます。しかし、その中でも神の恵みはあります。神の恵みがあるので、自分を生かしてくれます。